

第四次産業革命スキル習得講座 (Reスキル講座)認定制度 技術審査にあたってのポイント・留意点 【2024年3月版】

独立行政法人情報処理推進機構(IPA)
デジタル人材センター
人材プラットフォーム部

① 審査の体制

② Reスキル講座で求めるレベル

③ 教材、演習の実施内容等が分かる資料

④ 審査のポイント

⑤ ご提出資料の内容照会について

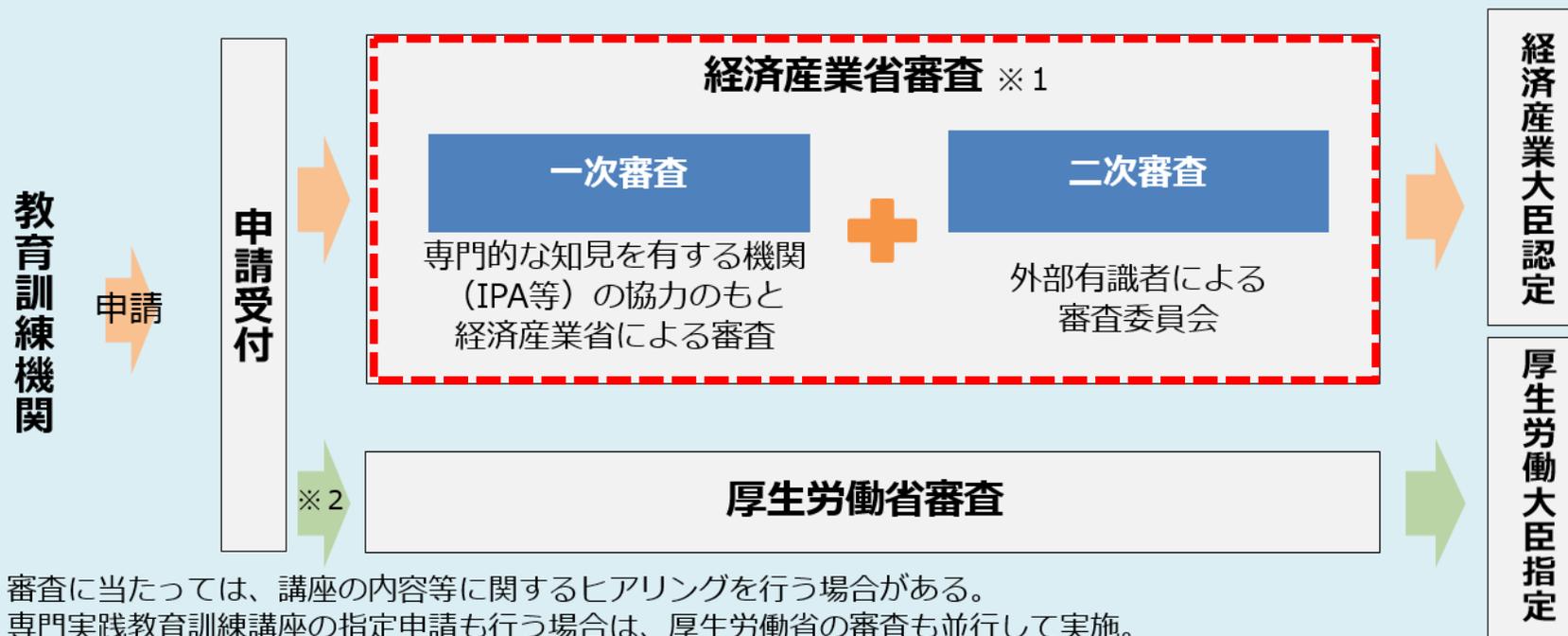
①審査の体制

申請方法

※今回(第14回)の申請より、ご提出いただく資料が減りました

- 以下の申請書類をメール・指定のファイルストレージで提出
 - ✓ 申請書・様式第1号～第7号
 - ✓ 提出物一覧・チェックリスト
 - ✓ 教材
 - ✓ 演習の具体的な実施手順等を示す資料等
 - ✓ その他の添付書類
- 申請書類の提出先：経済産業省
厚生労働省（専門実践教育訓練講座の指定申請も行う場合のみ）

審査方法



① 審査の体制

② Reスキル講座で求めるレベル

③ 教材、演習の実施内容等が分かる資料

④ 審査のポイント

⑤ ご提出資料の内容照会について

②Reスキル講座で求めるレベル

レベルの再整理・拡充後も講座の職業実践性を確保する観点から、

- レベル4からレベル3に拡大することに伴い、**レベル定義に即した教育内容を求める。**
- 実践的な方法による**授業の割合（50%以上）の要件化、外部有識者による審査**を引き続き実施。

レベル定義について

レベル	レベル定義（スキル標準共通）
4	<ul style="list-style-type: none"> • 一つまたは複数の専門を獲得したプロフェッショナルとして、専門スキルを駆使し、業務上の課題の発見と解決をリードするレベル • プロフェッショナルとして求められる、経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献する
3	<ul style="list-style-type: none"> • 要求された作業を全て独力で遂行するレベル • 専門を持つプロフェッショナルを目指し、必要となる応用的知識・技能を有する

講座の職業実践性について

※厚生労働省 第1回労働政策審議会人材開発分科会（Reスキル認定制度創設に伴う、教育訓練給付の講座指定基準の見直しに関する検討）資料より引用

- プレゼンテーション等の受講者側から発言する授業形態のほか、ディスカッションやグループワーク、ワークショップ等の双方向の授業形態や、課題解決のための実習・演習等、実践的な方法による授業が、**教育訓練の50%以上を占めていることを認定要件化。**
- 認定に当たり、申請のあった教育訓練の内容が真に産業界のニーズに沿ったものであるかどうか等の観点から的確な評価を行うため、**産業界を交えた外部有識者による審査を実施。**

②Reスキル講座で求めるレベル

レベル	レベル定義（スキル標準共通）
7	<ul style="list-style-type: none">・社内外にまたがり、テクノロジーやメソドロジ、ビジネス変革をリードするレベル・市場への影響力がある先進的なサービスやプロダクトの創出をリードした経験と実績を持つ世界で通用するプレーヤ
6	<ul style="list-style-type: none">・社内外にまたがり、テクノロジーやメソドロジ、ビジネス変革をリードするレベル・社内だけでなく市場から見ても、プロフェッショナルとして認められる経験と実績を持つ国内のハイエンドプレーヤ
5	<ul style="list-style-type: none">・社内において、テクノロジーやメソドロジ、ビジネス変革をリードするレベル・社内で認められるハイエンドプレーヤ
4	<ul style="list-style-type: none">・一つまたは複数の専門を獲得したプロフェッショナルとして、専門スキルを駆使し、業務上の課題の発見と解決をリードするレベル・プロフェッショナルとして求められる、経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献する
3	<ul style="list-style-type: none">・要求された作業を全て独力で遂行するレベル・専門を持つプロフェッショナルを目指し、必要となる応用的知識・技能を有する
2	<ul style="list-style-type: none">・要求された作業について、上位者の指導の下、その一部を独力で遂行するレベル・プロフェッショナルに向けて必要となる基本的知識・技能を有する
1	<ul style="list-style-type: none">・要求された作業について、上位者の指導を受けて遂行するレベル・プロフェッショナルに向けて必要となる基本的知識・技能を有する

- ① 審査の体制
- ② Reスキル講座で求めるレベル
- ③ 教材、演習の実施内容等が分かる資料
- ④ 審査のポイント
- ⑤ ご提出資料の内容照会について

③教材、演習の実施内容等が分かる資料

申請方法

※今回(第14回)の申請より、ご提出いただく資料が減りました

○以下の申請書類をメール・指定のファイルストレージで提出

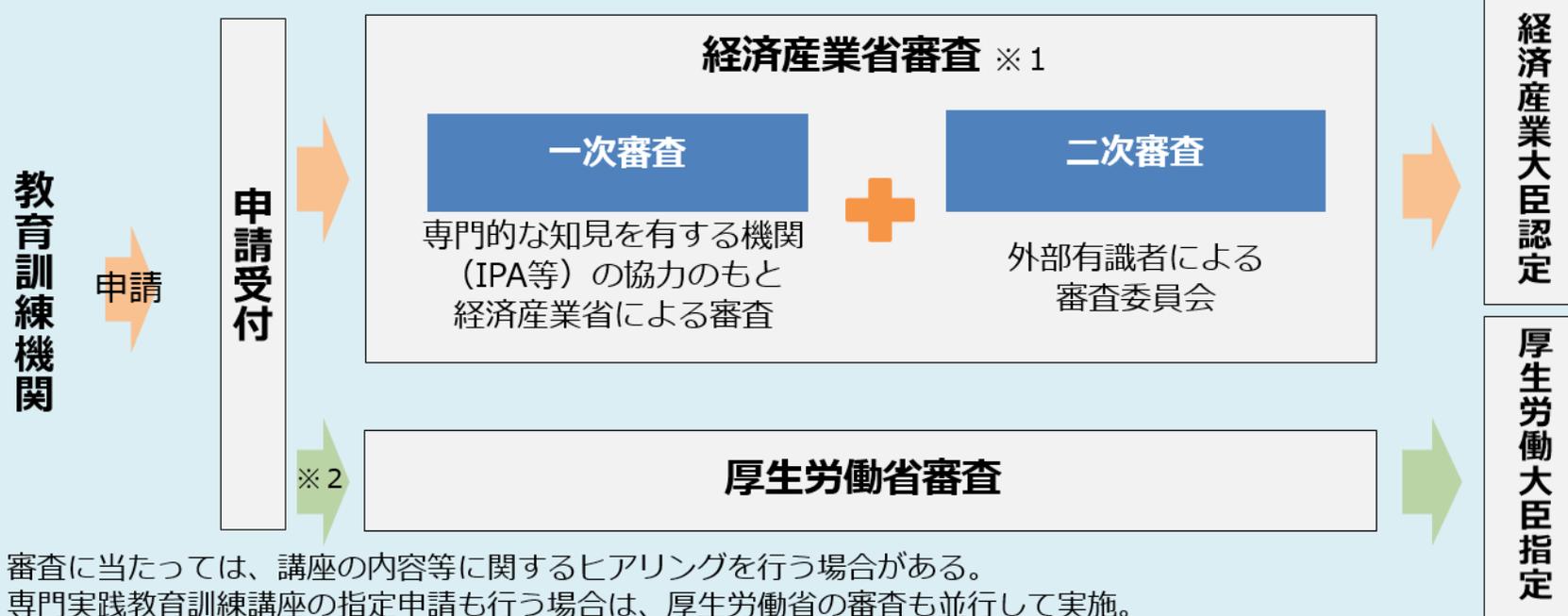
- ✓ 申請書・様式第1号～第7号
- ✓ 提出物一覧・チェックリスト
- ✓ 教材

- ✓ 演習の具体的な実施手順等を示す資料等
- ✓ その他の添付書類

○申請書類の提出先：経済産業省

厚生労働省（専門実践教育訓練講座の指定申請も行う場合のみ）

審査方法



※1 審査に当たっては、講座の内容等に関するヒアリングを行う場合がある。

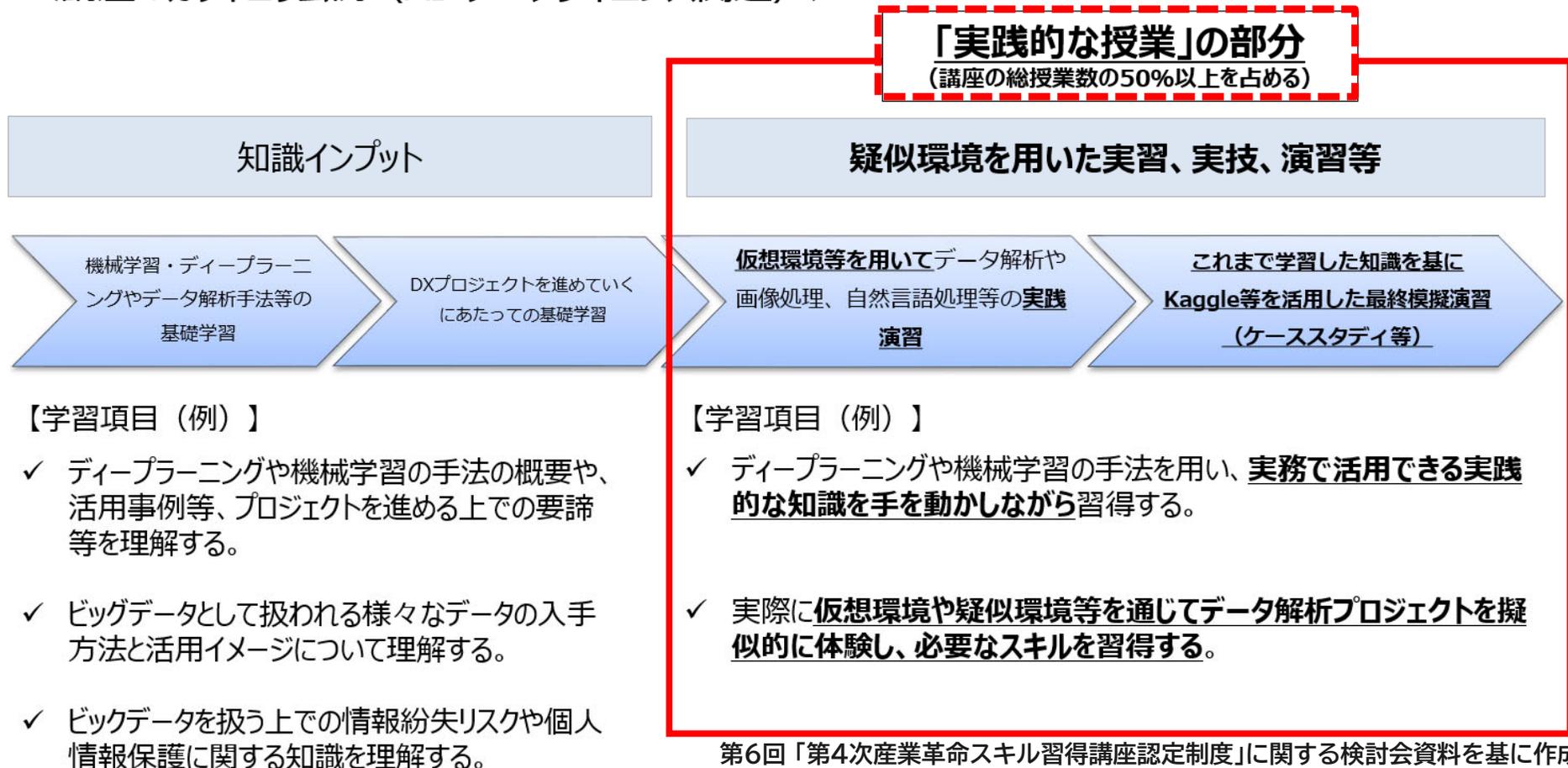
※2 専門実践教育訓練講座の指定申請も行う場合は、厚生労働省の審査も並行して実施。

③教材、演習の実施内容等が分かる資料

「実践的」なレベル3の講座カリキュラムの具体例について

- 双方向のコミュニケーションまでは求めないものの、習得した知識、技術及び技能の一部又は全部について、**疑似環境や仮想環境等を用いて実際に試行・実践する機会を提供し、実践的な授業を行う**講座も今後認定対象としていく予定。

<講座のカリキュラム例（AI・データサイエンス関連）>



- ① 審査の体制
- ② Reスキル講座で求めるレベル
- ③ 教材、演習の実施内容等が分かる資料
- ④ 審査のポイント
- ⑤ ご提出資料の内容照会について

④審査のポイント

◆ 申請にあたって**必読**のドキュメント

- 実施要項(特に【審査のポイント】部)
- 申請書・様式記載例
- よくある質問と回答

<経産省webサイト>

The screenshot shows the METI website page for the 'Fourth Industrial Revolution Reskill Programs'. The page title is '第四次産業革命スキル習得講座認定制度' (Certification System for Reskill Programs for the Fourth Industrial Revolution). The main content area includes a 'New Information' section with three items: 1. The 13th 'Reskill Program' was certified (2024/2/2). 2. The 13th 'Reskill Program' certification system will start accepting applications (2023/10/2). 3. The 13th 'Reskill Program' certification system will expand the eligible fields (2023/9/6). Below this is a 'Certification Targets' section with a list of IT fields: AI, IoT, Data Science, Cloud, Design Thinking, and Agile Development; High Security and Networks; and Digital Transformation Promotion (Business Architects, Designers, Data Scientists, Software Engineers, Cybersecurity).

詳細は



Reスキル講座



で検索

<二次元バーコード>



※経産省webサイト 第四次産業革命スキル習得講座認定制度

<<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/reskillprograms/index.html>>より抜粋

④審査のポイント-実施要項-

【内容】

実施要項 P.5より抜粋

I T分野について、「実習、実技、演習又は発表を伴う授業その他実践的な方法による授業」とは、以下のような内容を授業の中に含むものを指します。

(ア) 疑似環境を用いた実習、実技、演習等を含む実践的なもの

さらに、I T利活用分野については、上記に加え、以下のような双方向又は多方向に行われる内容を授業の中に含むものも指します。

(イ) プレゼンテーション等の受講者側からの発表を含むもの

(ウ) ディスカッション、グループワーク、ワークショップ等の手法を含むもの

【審査のポイント】

「実習、実技、演習又は発表を伴う授業その他実践的な方法による授業」とは、上記の実習等が授業の一部に含まれているものを指します。

また、「実習、実技、演習又は発表を伴う授業その他実践的な方法による授業が教育訓練の半分以上を占める」とは、実習等を含む授業の数が、認定を受けようとする教育訓練の総授業数の半分以上を占めることを指します。

④審査のポイント-申請書・様式記載例-

【申請様式において技術審査で重視する項目】

◆ 様式第4号

★ 2. 教育訓練の内容 (カリキュラム)

★ 3. 教育訓練の対象分野

★ 4. 教育訓練の目標レベル

• 6. 教育効果の把握方法 (修了評価)

• 10. サブジェクトマターエキスパート(SME:領域専門家)と講師

◆ 様式第7号

• 1. サブジェクトマターエキスパートの経歴書

• 2. 主担当講師もしくは、担当講師の経歴書

※上記以外の様式・項目の重要性が低いわけではありませんのでご注意ください。

④審査のポイント-申請書・様式記載例-

【様式第4号 記載例】
3. 教育訓練の対象分野

3. 教育訓練の対象分野 ※記載にあたっては、必ず「【参照用】ロール対応表-1001」を確認してください。

※ロールの定義、詳細については、以下URLを確認の上、ご対応ください。

[<各人材類型における「ロール」の定義について>](#)

(1) 対象分野	①当該講座の中で主として学習できる分野(ロール)を選択してください。 ※選択にあたっては、【参照用】ロール対応表-1001を確認し、カリキュラムと対応づけたスキル項目に該当しているロールの中から選択してください。	
	ビジネスアーキテクト(社内業務の高度化・効率化)	
	②上記ロールの他に該当する分野(ロール)を選択してください。 ※2つ以内で任意選択	
	(i)	データビジネスストラテジスト
	(ii)	データサイエンスプロフェッショナル

④審査のポイント-申請書・様式記載例-

4. 教育訓練の目標レベル

【様式第4号 記載例】
4. 教育訓練の目標レベル

(1) 目標とするレベル	▼ 以下目標とするレベルに該当する場合は○を記入	
	○	当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、専門を持つプロフェッショナルを目指して、要求された作業をすべて独力で遂行するレベル
(2) 講座全体を通じての到達目標	▼ 当該教育訓練における講座全体を通じての具体的な到達目標を記入	
	<p>以下を実行する能力を身につけ、自社内におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材を育成する。</p> <p>①各種データを収集・蓄積する手法等を理解し、またデータクレンジング等の前処理を行うことができる。 ②探索的データ分析によるデータ理解・データ活用戦略立案を行うことができる。 ③データサイエンスを用いて業務課題を洗い出し、取り組むべき課題を特定することができる。 ④デジタル技術を活用した課題解決を行い、DXを主導及び推進することができる。</p>	
(3) ロール毎の到達目標等	▼ 当該教育訓練が「(1)目標とするレベル」に達している理由を記入 ※記載例を参照のうえ、記載してください。 ※「3.(1)対象分野」で選択したロール毎に記載してください。	
	主たるロール	ビジネスアーキテクト(社内業務の高度化・効率化)
	<p>本講座では、仮想上の各種企業データを用いたケーススタディ形式の演習を通じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮想企業における業務課題と課題解決の目的を定義し、デジタル技術を活用した新たな業務プロセスの設計および実行 ・仮想企業への新たな業務プロセス導入に係る実現可能性、課題解決の可否、収益性、ソリューションの有効性検証 ・構想から効果検証までを一気通貫で実施 <p>等を疑似的に経験・学習することで、社内業務の課題解決に係る実務経験相当の学びを得ることができる。</p> <p>またビジネスアーキテクト(社内業務の高度化・効率化)に特に必要となるスキル項目を含んでおり、同ロールがDXの推進において担う責任及び主な業務を遂行する能力についても、概ね修得できる構成となっている。</p> <p>以上のことから、当該教育訓練についてITSSレベル3以上の水準に達している。</p>	

④ 審査のポイント-申請書・様式記載例-

デジタルスキル標準ver1.1
(2023年8月公開版)より抜粋

第Ⅲ部 第3章 人材類型・ロール a.ビジネスアーキテクト

ビジネスアーキテクトのロール | 担う責任・主な業務・スキル (3/3)

人材類型	ビジネスアーキテクト																																																																																																																																						
ロール	ビジネスアーキテクト (社内業務の高度化・効率化)																																																																																																																																						
DXの推進において担う責任	社内業務の課題解決の目的を定義し、その目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する																																																																																																																																						
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> 社内業務の課題と課題解決の目的を定義し、データやデジタル技術を活用した新たな業務プロセスの設計やプロセスを実行するための技術や手法・ツールの選定を行う 新たな業務プロセスの実現可能性、新たなプロセスによる課題解決の可否、ソリューションの有効性を検証し、計画の策定やソリューションの要件定義や実装を行う 顧客・ユーザーからのフィードバックやKPIのモニタリングを通じて、プロセスやソリューションの収益性を向上する施策（コストの削減等）を継続的に検討・実行する 構想から効果検証まで一貫して、関係者全体のコーディネート（必要なリソースの確保、チームの組成、適材適所を意識した偏りのないタスクの割り振り、関係者間の合意形成の促進等）を担う 																																																																																																																																						
必要なスキル	<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>サブカテゴリ</th> <th>スキル項目</th> <th>重要度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">戦略・マネジメント・システム</td> <td rowspan="6"></td> <td>ビジネス戦略策定・実行</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>プロダクトマネジメント</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>変革マネジメント</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>システムズエンジニアリング</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>エンタープライズアーキテクチャ</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>プロジェクトマネジメント</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">ビジネス変革</td> <td rowspan="6">ビジネスモデル・プロセス</td> <td>ビジネス調査</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>ビジネスモデル設計</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>ビジネスアナリシス</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>検証（ビジネス視点）</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>マーケティング</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>ブランディング</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">デザイン</td> <td rowspan="6"></td> <td>顧客・ユーザー理解</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>価値発見・定義</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>設計</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>検証（顧客・ユーザー視点）</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>その他デザイン技術</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	戦略・マネジメント・システム		ビジネス戦略策定・実行	d	プロダクトマネジメント	d	変革マネジメント	a	システムズエンジニアリング	c	エンタープライズアーキテクチャ	c	プロジェクトマネジメント	b	ビジネス変革	ビジネスモデル・プロセス	ビジネス調査	c	ビジネスモデル設計	d	ビジネスアナリシス	c	検証（ビジネス視点）	c	マーケティング	d	ブランディング	d	デザイン		顧客・ユーザー理解	c	価値発見・定義	c	設計	d	検証（顧客・ユーザー視点）	c	その他デザイン技術	d					<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>サブカテゴリ</th> <th>スキル項目</th> <th>重要度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">データ活用</td> <td rowspan="3">データ・AIの戦略的活用</td> <td>データ理解・活用</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>データ・AI活用戦略</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">AI・データサイエンス</td> <td rowspan="3">機械学習・深層学習</td> <td>数理統計・多変量解析・データ可視化</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>データ活用基盤設計</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>データ活用基盤実装・運用</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">テクノロジー</td> <td rowspan="10">ソフトウェア開発</td> <td>コンピュータサイエンス</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>チーム開発</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア設計手法</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア開発プロセス</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>Webアプリケーション基本技術</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>フロントエンドシステム開発</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>バックエンドシステム開発</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>クラウドインフラ活用</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>SREプロセス</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>サービス活用</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	データ活用	データ・AIの戦略的活用	データ理解・活用	b	データ・AI活用戦略	c	データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c	AI・データサイエンス	機械学習・深層学習	数理統計・多変量解析・データ可視化	d	データ活用基盤設計	d	データ活用基盤実装・運用	d	テクノロジー	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	d	チーム開発	d	ソフトウェア設計手法	d	ソフトウェア開発プロセス	c	Webアプリケーション基本技術	d	フロントエンドシステム開発	d	バックエンドシステム開発	d	クラウドインフラ活用	d	SREプロセス	d	サービス活用	c					<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>サブカテゴリ</th> <th>スキル項目</th> <th>重要度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">テクノロジー</td> <td rowspan="3">デジタルテクノロジー</td> <td>フィジカルコンピューティング</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>その他先端技術</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>テクノロジートレンド</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">セキュリティ</td> <td rowspan="3">セキュリティマネジメント</td> <td>セキュリティ体制構築・運営</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>セキュリティマネジメント</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>インシデント対応と事業継続</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">セキュリティ技術</td> <td>プライバシー保護</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>セキュア設計・開発・構築</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>セキュリティ運用・保守・監視</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">パーソナルスキル</td> <td rowspan="2">ヒューマンスキル</td> <td>リーダーシップ</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td>コラボレーション</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンセプチュアルスキル</td> <td>ゴール設定</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td>創造的な問題解決 批判的思考 適応力</td> <td>z</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	テクノロジー	デジタルテクノロジー	フィジカルコンピューティング	c	その他先端技術	d	テクノロジートレンド	c	セキュリティ	セキュリティマネジメント	セキュリティ体制構築・運営	d	セキュリティマネジメント	c	インシデント対応と事業継続	c	セキュリティ技術	プライバシー保護	b	セキュア設計・開発・構築	d	セキュリティ運用・保守・監視	d	パーソナルスキル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	z	コラボレーション	z	コンセプチュアルスキル	ゴール設定	z	創造的な問題解決 批判的思考 適応力	z
カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度																																																																																																																																				
戦略・マネジメント・システム		ビジネス戦略策定・実行	d																																																																																																																																				
		プロダクトマネジメント	d																																																																																																																																				
		変革マネジメント	a																																																																																																																																				
		システムズエンジニアリング	c																																																																																																																																				
		エンタープライズアーキテクチャ	c																																																																																																																																				
		プロジェクトマネジメント	b																																																																																																																																				
ビジネス変革	ビジネスモデル・プロセス	ビジネス調査	c																																																																																																																																				
		ビジネスモデル設計	d																																																																																																																																				
		ビジネスアナリシス	c																																																																																																																																				
		検証（ビジネス視点）	c																																																																																																																																				
		マーケティング	d																																																																																																																																				
		ブランディング	d																																																																																																																																				
デザイン		顧客・ユーザー理解	c																																																																																																																																				
		価値発見・定義	c																																																																																																																																				
		設計	d																																																																																																																																				
		検証（顧客・ユーザー視点）	c																																																																																																																																				
		その他デザイン技術	d																																																																																																																																				
カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度																																																																																																																																				
データ活用	データ・AIの戦略的活用	データ理解・活用	b																																																																																																																																				
		データ・AI活用戦略	c																																																																																																																																				
		データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c																																																																																																																																				
	AI・データサイエンス	機械学習・深層学習	数理統計・多変量解析・データ可視化	d																																																																																																																																			
			データ活用基盤設計	d																																																																																																																																			
			データ活用基盤実装・運用	d																																																																																																																																			
テクノロジー	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	d																																																																																																																																				
		チーム開発	d																																																																																																																																				
		ソフトウェア設計手法	d																																																																																																																																				
		ソフトウェア開発プロセス	c																																																																																																																																				
		Webアプリケーション基本技術	d																																																																																																																																				
		フロントエンドシステム開発	d																																																																																																																																				
		バックエンドシステム開発	d																																																																																																																																				
		クラウドインフラ活用	d																																																																																																																																				
		SREプロセス	d																																																																																																																																				
		サービス活用	c																																																																																																																																				
カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度																																																																																																																																				
テクノロジー	デジタルテクノロジー	フィジカルコンピューティング	c																																																																																																																																				
		その他先端技術	d																																																																																																																																				
		テクノロジートレンド	c																																																																																																																																				
セキュリティ	セキュリティマネジメント	セキュリティ体制構築・運営	d																																																																																																																																				
		セキュリティマネジメント	c																																																																																																																																				
		インシデント対応と事業継続	c																																																																																																																																				
	セキュリティ技術	プライバシー保護	b																																																																																																																																				
		セキュア設計・開発・構築	d																																																																																																																																				
		セキュリティ運用・保守・監視	d																																																																																																																																				
パーソナルスキル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	z																																																																																																																																				
		コラボレーション	z																																																																																																																																				
	コンセプチュアルスキル	ゴール設定	z																																																																																																																																				
		創造的な問題解決 批判的思考 適応力	z																																																																																																																																				
<p>【重要度凡例】</p> <p>a 高い実践力と専門性が必要 z 役割や状況に応じた実践力が必要 b 一定の実践力と専門性が必要 c 説明可能なレベルで理解が必要 d 位置づけや関連性の理解が必要</p>																																																																																																																																							

④審査のポイント-よくある質問と回答-

◆ 申請にあたって**必読**のドキュメント

- 実施要項(特に【審査のポイント】部)
- 申請書・様式記載例

● よくある質問と回答

<経産省webサイト>

The screenshot shows the METI website page for the 'Fourth Industrial Revolution Reskill Program'. The page title is '第四次産業革命スキル習得講座認定制度' (Certification System for Reskill Programs in the Fourth Industrial Revolution). The main content area includes a 'New Information' section with three items: 1. The 13th 'Reskill Program' was certified (2024/2/2). 2. The 13th 'Reskill Program' certification system will start accepting applications (2023/10/2). 3. The 13th 'Reskill Program' certification system will expand the eligible fields (2023/9/6). Below this is the 'Certification Targets' section, which lists three IT-related fields: 1. AI, IoT, Data Science, Cloud (Design thinking, agile development, etc.). 2. High-security networks. 3. Digital transformation promotion (Business architects, designers, etc.).

詳細は



Reスキル講座

で検索

<二次元バーコード>



※経産省webサイト 第四次産業革命スキル習得講座認定制度

<<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/reskillprograms/index.html>>より抜粋

- ① 審査の体制
- ② Reスキル講座で求めるレベル
- ③ 教材、演習の実施内容等が分かる資料
- ④ 審査のポイント
- ⑤ ご提出資料の内容照会について

⑤: ご提出資料の内容照会について

- ◆ ご提出いただいた申請書類について、審査を進める過程で不備や確認事項等があった場合は、経済産業省の担当者から個別に問い合わせさせていただきます。
- ◆ なるべく多くの講座を認定したいと考えておりますので、問い合わせがあった際は、よろしくご対応のほどお願いいたします。

IPA

ご視聴いただきありがとうございました。